

いちおしグルメ 和菓子 狗江風月堂

●本店・工場=☎03-3480-3431 中和泉
4-24-7 時間=9時30分~17時 ●市役
所前店=☎3480-3880 中和泉1-2-10
時間=9時30分~19時 日曜休み ホーム
ページhttp://www.komae-fugetsudo.jp/



工場で従業員と柏餅を作る菅生社長(右)

端午の節句(こどもの日)に欠かせないのが柏餅。

和菓子の製造と販売を行っている有限会社狗江風月堂(菅生兼行社長)は、4月半ばから5月中旬まで2種類の柏餅を製造販売する。白い餅にはこしあん、ヨモギ入りの草餅には粒あんが入っている。餅は丸い饅頭型で、弾力のある食感が好評だ。食材はすべて日本産を使い、あんや生地を自社で製造。最後の仕上げの柏の葉



国産の材料と創意工夫生かした季節の和菓子

でくるむ作業は、その日に販売する数を見込んで毎朝行っている。

同社の直営店舗は中和泉の本店と市役所前の2カ所があり、数種の季節限定商品を含め常時約30種

の和菓子を販売している。なかでも創業時から作っている、洋風にアレンジしたクルミ入りの焼き菓子「サブレー万頭こまえ」、大きな栗が入った粒あんのどら焼きはファンが多い。地域にちなんだ創作和菓子も多く、岡山産の備中大納言小豆と香ばしい皮を使い、本店

近くにある「玉川碑」にちなんで名づけた「万葉最中」は、贈答用としても人気が高い。

同社は、昭和42年に渋谷で菅生八郎さん(故人)・基子さん夫妻が創業し、47年に狗江に移転、その後市役所前に支店を開いた。本店の工場では、20人の社員が、他の店からも注文を受けて数多くの和菓子を作っている。モットーは国産の吟味した材料で顧客のニーズに合わせた菓子をていねいに作ることだという。

menu

柏餅¥158、どら焼き¥210、サブレー万頭こまえ¥158、若あゆ¥162、万葉最中¥158、上生菓子¥250
(価格は1個、消費税込み)



市内を回る広告塔

市内を巡回するコミュニティバス「こまバス」は、「絵手紙発祥の地-狗江」の動く広告塔として知られる。普通の路線バスより小型の長さ6.99m、幅2.08m、高さ3.10m、36人乗りの車体には、水色の地に「絵手紙発祥

の地-狗江」の大きなシールが貼られ、車内は、市内外の絵手紙サポーターによる作品10数点を展示したミニ絵手紙ギャラリーになっている。

こまバスは平成20年11月から運行され、40の停留所を80分かけて巡回する。バスは2台で南回りと北回りがあり、1日に22本運行している。

小田急バス狗江営業所では「絵手紙の大きなイベントがあるときなどは、見物を兼ねて市外のお客様も乗車されます」と話しており、絵手紙の広報に大きな役割を果たしているという。



前田敦子さん(西和泉)

絵手紙の魅力「絵手紙と出会い、ものを見る目が変わりました。季節を忘れずに咲く花、実をつける植物等、色々なものに大きな感動をもらっています。楽しみに待っている人がいる…。1枚の絵手紙に『ありがとう』の気持ちを添えて送っています」

ひらがね 絵手紙の輪

「狗江-絵手紙サポーター」から寄せられた絵手紙とコメントをご紹介します。問い合わせ☎3430-1111 狗江市地域活性化課市民文化係

職人に頼んで立てたこいのぼり



昭和13年に銀行町の民家の庭に立てられたこいのぼり(上)と座敷に飾られた五月人形。端午の節句前に撮影されたもので、写っているのは、前年に生まれた東

和泉2丁目の飯田吉明さん(73)と父の吉太さん。

こいのぼりと人形は、山形県酒田市出身で会社員だった父と狗江生まれの母千枝子さんの長男として生まれた吉明さんの初節句に、親戚から贈られたものと思われる。当時は祖父の咲五郎さんも健在で、銀行町で



材木屋を営んでおり広い庭があった。

当時はクレーンなどはないため、大きなこいのぼりを飾るのは大変な作業だった。節句の1月ほど前に出入りの仕事師(とび職)が3、4人来て、高さ10m以上もある支柱を立てたり、ロープを斜めに張って数匹のこいのぼりを吊るなどの作業をしたという。当時は、長男の初節句の時に親戚がこいのぼりを贈るのが一般的だった。柏餅も自宅で作

り、ロープを斜めに張って数匹のこいのぼりを吊るなどの作業をしたという。当時は、長男の初節句の時に親戚がこいのぼりを贈るのが一般的だった。柏餅も自宅で作

り、ロープを斜めに張って数匹のこいのぼりを吊るなどの作業をしたという。当時は、長男の初節句の時に親戚がこいのぼりを贈るのが一般的だった。柏餅も自宅で作

母親が米粉を棒でついていたことを覚えている。こいのぼりは吉明さんが6、7歳のころまで立てたが、戦争が激しくなる19年以降はやめてしまった。ただ、五月人形は戦後しばらくは飾ったという。

取材・写真協力=飯田吉明さん



夜の公園に現れたタヌキ

春の暖かさに誘われたのか、とんぼ池公園(前原公園)に珍しい訪問者が現れた。2匹のタヌキが夜半から朝まで池の水を飲んだり、公園を歩き回っていた。

晩春から初夏にかけ、公園の樹木は一斉に若葉を芽吹かせ、毎日その様子を変える。芽吹いた葉は茶や黄色がかった緑から鮮やかな緑色になっていく。

日本の樹木の中では花と葉が最も大きいモクレン科のホオノキが5月中旬ごろから咲き始める。枝先に直径約15cmもある黄白色の花を開き、あたりに芳香を漂わせる。秋につける赤褐色の実、大きくて見



事である。葉は長さ30~40cmもあり、古くから食べ物を盛ったり、包むのに使われていた。いまでも高山(岐阜県)名物の朴葉味噌として親しまれている。

毎年4月初めからトンボの羽化が始まる。クロスジギンヤンマが最初に飛び立ち、シオカラトンボ、各種

のイトトンボなどが8月初旬まで次々と飛び立つ。この時期は夜半から早朝までその様子を見ることができる。ヤゴからトンボに羽化する光景は何度見ても実に美しい。

ただ今年はトンボの羽化が全体に遅れ気味で、クロスジギンヤンマの羽化が初めて観察されたのは4月13日だった。

とんぼの会=文・山本八郎、写真・斉田靖匡